

大学番号：私031

注3

[平成28年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

東北医科薬科大学 医学部

(東北薬科大学(平成28年度より大学名称変更))

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東北医科薬科大学

(学校法人 東北薬科大学(平成28年度より法人名称変更))

平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 医学部事務室

職名・氏名 係長・岡本 功喜

電話番号 022-727-0035

(夜間) 022-727-0035

F A X 022-727-0159

e-mail igakubu-jimu@tohoku-mpu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

医学部

<医学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 留意事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 東北医科薬科大学

(2) 大学名

東北医科薬科大学

(3) 大学の位置

(小松島キャンパス)

〒981-8558

宮城県仙台市青葉区小松島四丁目4番1号

(福室キャンパス・東北医科薬科大学病院)

〒983-8512

宮城県仙台市宮城野区福室一丁目12番1号

(東北医科薬科大学 若林病院)

〒984-8560

宮城県仙台市若林区大和町二丁目29番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカヤナギ モトアキ) 高柳 元明 (平成13年2月)	-	
学長	(タカヤナギ モトアキ) 高柳 元明 (平成13年2月)	-	
学部長	(フクダ ヒロシ) 福田 寛 (平成28年4月)	-	
学科長等	該当なし	-	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)

平成28年度に報告する内容 → (28)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え直し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合(平成28年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
医学部 医学科 学士(医学)	6年	100人	- 年次人	600人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	100人	-人	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1.00倍	修学資金枠入学者数 ・ A方式: 35人 (宮城県枠30名、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県各県1名ずつ) ・ B方式: 20人 (宮城県を除く東北5県一括合格20名)
志願者数	2,458	-	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()		
受験者数	2,278	-	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()		
合格者数	297	-	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()		
B 入学者数	100	-	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	1.00															

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		備考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	[-] (-) 100	[-] (-) -	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()		
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()		
3年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
5年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
6年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計			[-] (-) 100	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	100 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0 %
			平成29年度	人	人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
			平成33年度	人	人		
平成29年度 入学者	— 人	— 人	平成29年度	人	人		— %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
			平成33年度	人	人		
平成30年度 入学者	— 人	— 人	平成30年度	人	人		— %
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
			平成33年度	人	人		
平成31年度 入学者	— 人	— 人	平成31年度	人	人		— %
			平成32年度	人	人		
			平成33年度	人	人		
平成32年度 入学者	— 人	— 人	平成32年度	人	人		— %
			平成33年度	人	人		
平成33年度 入学者	— 人	— 人	平成33年度	人	人		— %
合 計	100 人	0 人					0 %

(注)・数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<医学部 医学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎 教養 科目	倫理学	1前	1									兼1
	心の科学	1前	1									兼1
	現代社会と人間	1前	1									兼1
	大学基礎論	1前	1			1 0						兼11
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1									兼3 兼2
	哲学	1後		1								兼1
	経済学	1後		1								兼1
	法学	1後		1								兼1
	科学と歴史	1後		1								兼1
	人と文化	1後		1								兼1
	文章論	1後		1								兼1
	からだと健康	1後		1								兼2
	数学Ⅰ（基礎編）	1前	1									兼1
	数学Ⅱ（応用・統計編）	1後	1									兼1
	医学英語Ⅰ	1前	1									兼2
	医学英語Ⅱ	1後	1									兼2
	医学英語Ⅲ	2前	1									兼1
	医学英語Ⅳ	2後	1									兼2
	医学英語Ⅴ	3前	1									兼2
	医学英語Ⅵ	3後	1									兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前		1								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1								兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1								兼1
	フランス語Ⅱ	1後		1								兼1
	中国語Ⅰ	1前		1								兼1
	中国語Ⅱ	1後		1								兼1
小計（26科目）	—		13	13		1 0	0	0	0	0		兼22 兼21
準備 教育 科目	【9001】基礎物理学	1前	1			1 0		1	1 0			兼1
	【9002】基礎化学	1前	1			1 0		1	1 0			兼4 兼3
	【9003】基礎生物学	1前	1			1 0	0 1		1 0			兼1
	【9004】情報科学	1前	1									兼4 兼3
	【9005】行動心理学	1前	1									兼1
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5									兼6 兼4
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1			兼4 兼3
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			1	0 1		2 1			兼4 兼3
	【9009】情報科学実習	1前	0.5									兼4 兼3
	小計（9科目）	—		7			2 1	0 1	1	3 2	0	
基本 事項	【1000】医学概論	1前	1			2	1					兼2 兼0
	【1001】医療安全学	1後	1				1					兼2 兼0
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4 1		1 0	1 0			兼2 兼0
	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1						兼1 兼0
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			1			10			兼1 兼0
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			2 1			9			兼1 兼0
	【1006】課題研究	3通	4			1						兼3 兼0
小計（7科目）	—		10			6 3	2	1 0	20 19	0		兼3 兼0

社会医学	【2000】 衛生学	1後	1			1			2		兼1
	【2001】 地域医療学	2前	1				1		0		
	【2002】 介護・在宅医療学	2後	1				2				
	【2003】 公衆衛生学	2後	1					1			
	【2004】 医事法学	3前	1			1	1		2		
	【2005】 医療管理学	3後	1			1					
	【2006】 法医学	3後	1			1			2		
	【2007】 衛生学体験学習	1後	1			1			4		
	【2008】 僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5			1	3		2		
	【2009】 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	4		7		
	【2010】 介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	1	6		
小計 (11科目)	—	10			4	5	1	19	0	兼1	
基礎医学	【3000】 細胞生物学	1後	1			1		1			兼4 兼0
	【3001】 遺伝学	2前	1			0					
	【3002】 医化学	1後	2			1		1	1		
	【3003】 免疫学	2後	1			1			0		
	【3004】 放射線基礎医学	1後	1			1	1	0			
	【3005】 解剖学	2前	2			1					
	【3006】 神経解剖学	2前	1				1				
	【3007】 組織学	2前	1				1				
	【3008】 発生学	1後	1			1					
	【3009】 微生物学Ⅰ	2前	1			1					
	【3010】 微生物学Ⅱ	2前	1				1				
	【3011】 生理学	2後	3			1					
	【3012】 神経生理学	2後	1			1					
	【3013】 薬理学	2後	2			1					
	【3014】 病理学	3前	2			1	2				
	【3015】 免疫学実習	2後	1			1		1	1		
	【3016】 医化学実習	1後	1			1		1	1		
	【3017】 放射線基礎医学体験学習	1後	1			1	1		1		
	【3018】 解剖学実習	2前	5			1	1		1		
	【3019】 微生物学実習	2前	1			1	1		2		
	【3020】 組織学実習	2前	1			1	1		1		
	【3021】 薬理学実習	2後	1			1	1		1		
	【3022】 生理学実習	2後	1			2	1		3		
	【3023】 病理学実習	3前	2			1	2		2		
小計 (24科目)	—	35			9	7	2	10	0	兼4 兼0	

臨床医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3			3	2					
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2			1	2	1				
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3			1	2					
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3			2	5					
	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			1	3					
	【4005】精神科学	3前	1			1	2					
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			1	1	2				
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	2					
	【4008】小児科学	3前	2			1	1					
	【4009】整形外科	3前	2			1						
	【4010】全身管理学	3前	1			1	2	2				
	【4011】麻酔学	3前	1					1	1			
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1					1				
	【4013】血液学	3後	2			1						
	【4014】皮膚科学	3後	1			1	1					
	【4015】眼科学	3後	1				1					
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			1	1					
	【4017】放射線医学	3後	2			2						
	【4018】災害医療学	3後	1					1				
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	2					
	【4020】乳房外科学	3後	1			2						
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1					1				
	【4023】臨床薬理学	4前	1					1				
	【4024】腫瘍学	4前	1					1				
	【4025】高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1					1	1	7	6	4
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2					
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		2	2					
	【4029】移植医療学	4前		1		1	1	2				
	【4033】救急医療学	3前	1					1				
	【4034】医療薬学概論	3前	1									兼6
小計(32科目)	—	44.5	2		24	34	7	12	0	6	兼6	
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			7	13					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			24	15					
	【4032】基本的診療技能	4前	2			14	11					
	小計(3科目)	—	24			26	18	0	0	0		
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			13	27	18	25			
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			22	39	19	26			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3	23	51		兼1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3		48			
	小計(4科目)	—	76			22	39	23	51	0	兼1	
講義統括	【6001】統括講義	6後	36			23	20	1				
	小計(1科目)	—	36			23	20	1	0	0		
合計(117科目)		—	255.5	15	0	35	49	27	67	0	兼41 兼31	
学位又は称号	学士(医学)		学位又は学科の分野			医学関係						
卒業要件及び履修方法						授業期間等						
<small>必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、 臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること</small>						1学年の学期区分		2期				
						1学期の授業期間		15週				
						1時限の授業時間		70分				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	単位	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	倫理学	1前	1									兼1
	心の科学	1前	1									兼1
	現代社会と人間	1前	1									兼1
	大学基礎論	1前	1			1	0					兼11
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1									兼3 兼2
	哲学	1後		1								兼1
	経済学	1後		1								兼1
	法学	1後		1								兼1
	科学と歴史	1後		1								兼1
	人と文化	1後		1								兼1
	文章論	1後		1								兼1
	からだと健康	1後		1								兼2
	数学Ⅰ（基礎編）	1前	1									兼1
	数学Ⅱ（応用・統計編）	1後	1									兼1
	医学英語Ⅰ	1前	1									兼2
	医学英語Ⅱ	1後	1									兼2
	医学英語Ⅲ	2前	1									兼1
	医学英語Ⅳ	2後	1									兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前		1								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1								兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1								兼1
	フランス語Ⅱ	1後		1								兼1
	中国語Ⅰ	1前		1								兼1
中国語Ⅱ	1後		1								兼1	
小計（24科目）	—	—	11	13		1	0	0	0	0	兼16 兼15	
準備教育科目	【9001】基礎物理学	1前	1									兼1
	【9002】基礎化学	1前	1			1	0	1	1	0		
	【9003】基礎生物学	1前	1			1	0	1	1	0		
	【9004】情報科学	1前	1									兼4 兼3
	【9005】行動心理学	1前	1									兼1
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5									兼6 兼4
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1			
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			1	0		2	1		
	【9009】情報科学実習	1前	0.5									兼4 兼3
	小計（9科目）	—	—	7			2	0	1	3	0	兼7 兼5
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			2	1					
	【1001】医療安全学	1後	1				1					
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4		1	1			兼2 兼0
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			1			10			
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			2			9			兼1 兼0
	小計（5科目）	—	—	5			6	2	1	20	0	兼3 兼0
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1			2	0		
	【2001】地域医療学	2前	1				1					兼1
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2					
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1			
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1			2			
	【2008】僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5			1	3		7	6		
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	1	6	5		
小計（7科目）	—	—	6.5			2	3	1	13	0	兼1	

基礎医学	【3000】細胞生物学	1後	1			1 0		1					
	【3001】遺伝学	2前	1			2							
	【3002】医化学	1後	2			1		1	1	0		兼4 兼0	
	【3003】免疫学	2後	1			1							
	【3004】放射線基礎医学	1後	1			1	1 0					兼1	
	【3005】解剖学	2前	2			1							
	【3006】神経解剖学	2前	1					1					
	【3007】組織学	2前	1					1					
	【3008】発生学	1後	1			1							
	【3009】微生物学Ⅰ	2前	1			1							
	【3010】微生物学Ⅱ	2前	1					1					
	【3011】生理学	2後	3			1							
	【3012】神経生理学	2後	1			1							
	【3013】薬理学	2後	2			1							
	【3015】免疫学実習	2後	1			1		1	1				
	【3016】医化学実習	1後	1			1		1	1				
	【3017】放射線基礎医学体験学習	1後	1			1	1			1			
	【3019】微生物学実習	2前	1			1	1						
	【3020】組織学実習	2前	1			1	1			1 2			
	【3021】薬理学実習	2後	1			1	1			1			
	【3022】生理学実習	2後	1			2	1 2			3 2			
小計（21科目）	—	26			8	5 6	2	8	0		兼4 兼0		
合計（66科目）	—	55.5	13.0	0.0	13	10 11	3 2	40 38	0		兼31 兼21		
学位又は称号	学士（医学）		学位又は学科の分野			医学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
<small>必修科目25.5単位 選択科目7単位以上 （基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、 臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上） 所要単位26.5単位以上修得すること</small>						1学年の学期区分		2期					
						1学期の授業期間		15週					
						1時限の授業時間		70分					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎目教養	医学英語V	3前	1									兼2
	医学英語VI	3後	1									兼2
	小計(2科目)	—	2			0	0	0	0	0		兼4
基本事項	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1						
	【1006】課題研究	3前～3後	4			1						
	小計(2科目)	—	5			2	0	0	0	0		
社会医学	【2004】医事法学	3前	1			1	1		2			
	【2005】医療管理学	3後	1			1						
	【2006】法医学	3後	1			1			2	1		
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5			1	4	3	5			
	小計(4科目)	—	3.5			3	5	4	0	8	7	0
基礎医学	【3014】病理学	3前	2			1	2					
	【3018】解剖学実習	2前	5			1	1		1	2		
	【3023】病理学実習	3前	2			1	2		2			
	小計(3科目)	—	9			2	3	0	3	4	0	
臨床医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3			3	2					
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2			1	2	1				
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3			1	2					
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3			2	5					
	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			1	3					
	【4005】精神科学	3前	1			1	2					
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			1	1	2				
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	2					
	【4008】小児科学	3前	2			1	1					
	【4009】整形外科学	3前	2			1						
	【4010】全身管理学	3前	1			1	2	2				
	【4011】麻酔学	3前	1					1	1			
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1				1					
	【4013】血液学	3後	2			1						
	【4014】皮膚科学	3後	1			1	1					
	【4015】眼科学	3後	1				1					
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			1	1					
	【4017】放射線医学	3後	2			2						
	【4018】災害医療学	3後	1				1					
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	2					
	【4020】乳房外科学	3後	1			2						
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1				1					
	【4023】臨床薬理学	4前	1				1					
	【4024】腫瘍学	4前	1				1					
	【4025】高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1				1	1	7	6	4	
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2					
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		2	2					
	【4029】移植医療学	4前		1		1	1	2				
	【4033】救急医療学	3前	1				1					
	【4034】医療薬学概論	3前	1									兼6
小計(32科目)	—	44.5	2		24	34	7	12	4	0	兼6	
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			7	13					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			24	15					
	【4032】基本的診療技能	4前	2			14	11					
	小計(3科目)	—	24			26	18	0	0	0		

臨床実習	【5000】 総合診療学演習	6前	6			13 12	27	18 19	25 26		
	【5001】 診療科臨床実習	4後～5後	64			22 21	39 38	23	51 48		
	【5002】 地域総合診療実習	6前	2			1	3		1		兼1
	【5003】 地域包括医療実習	6前	4			1	3		1		
	小計（4科目）	—	76			22 21	39 38	23	51 48	0	兼1
講義統括	【6001】 統括講義	6後	36			23	20	1			
	小計（1科目）	—	36			23	20	1	0	0	
合計（51科目）		—	200.0	2.0	0.0	35 34	46 45	25	59 56	0	兼11
学位又は称号	学士（医学）		学位又は学科の分野			医学関係					
卒業要件及び履修方法						授業期間等					
<small>必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、 臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること</small>						1学年の学期区分		2期			
						1学期の授業期間		15週			
						1時限の授業時間		70分			

- (注) ・認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・設置認可時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成27年度に認可（届出）された大学等は設置認可（届出）時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。）
 - ・「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 102	科目 15	科目 -	科目 117	科目 102 [-]	科目 15 [-]	科目 - [-]	科目 117 [-]	変更なし

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
 ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	東北医科薬科大学 若林病院は含まない。 (校地・校舎変更届未提出のため)			
	校舎敷地	29,295.86㎡	— ㎡	— ㎡	29,295.86㎡				
	運動場用地	28,047.00㎡	— ㎡	— ㎡	28,047.00㎡				
	小 計	57,342.86㎡	— ㎡	— ㎡	57,342.86㎡				
	そ の 他	43,050.31㎡	— ㎡	— ㎡	43,050.31㎡				
	合 計	100,393.17㎡	— ㎡	— ㎡	100,393.17㎡				
(2) 校 舎	専 用	111,350.47㎡	— ㎡	— ㎡	111,350.47㎡	東北医科薬科大学 若林病院は含まない。 (校地・校舎変更届未提出のため)			
	(80,740.47㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(80,740.47㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	31室	36室	42室	3室 (補助職員 — 人)	— 室 (補助職員 — 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	医学部 医学科			44 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能のため、大学全体の数 図書・電子ジャーナルの更なる充実のため (28)	
	医学部 医学科	138,000 [53,000] (115,460 [44,456]) (114,831 [44,110])	1,300 [550] (1,178 [539]) (1,167 [533])	20,600 [16,100] (7,120 [5,395]) (4,306 [2,688])	20,000 (614) (607)	10,000 (3,433) (4,648)	50 (11) (15)		
	計	138,000 [53,000] (115,460 [44,456]) (114,831 [44,110])	1,300 [550] (1,178 [539]) (1,167 [533])	20,600 [16,100] (7,120 [5,395]) (4,306 [2,688])	20,000 (614) (607)	10,000 (3,433) (4,648)	50 (11) (15)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	2,036㎡		215		17万冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	2,496.35㎡		テニスコート2面		—				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	医学部全体
		教員1人当り研究費等	400千円	500千円	図書購入費	0千円	50,000千円	5,000千円	
	共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	0千円	1,650,000千円	0千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		6,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	東北医科薬科大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
薬学部								
薬学科	6	300	-	1800	学士 (薬学)	1.06	平成18年度	宮城県仙台市青葉区小松島四丁目4番1号
生命薬科学科	4	40	-	160	学士 (薬科学)	0.68	平成18年度	同上
医学部								
医学科	6	100	-	600	学士 (医学)	1.00	平成28年度	宮城県仙台市青葉区小松島四丁目4番1号(1~2年次) 宮城県仙台市宮城野区福室一丁目12番1号(3~6年次)
薬学研究科								
薬学専攻	4	3	-	12	博士 (薬学)	0.91	平成24年度	宮城県仙台市青葉区小松島四丁目4番1号
薬科学専攻 博士前期課程	2	20	-	40	修士 (薬科学)	0.75	平成22年度	同上
薬科学専攻 博士後期課程	3	3	-	9	博士 (薬科学)	1.77	平成24年度	同上

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
- ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
- ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
- ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<医学部 医学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	カミジョウ ケイジュ 上条 桂樹	〈平成28年4月〉	発生学 解剖学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習						
専任	教授	カワイ ヨシコ 河合 佳子	〈平成28年4月〉	基礎生物学実習 生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習	専任	教授	カワイ ヨシコ 河合 佳子	〈平成28年4月〉	基礎生物学 基礎生物学実習 生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習	
専任	教授	マツザカ ヨシヤ 松坂 義哉	〈平成28年4月〉	神経生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習						
専任	教授	オカムラノブユキ 岡村 信行	〈平成28年4月〉	薬理学 薬理学実習 基礎-臨床統合演習						
専任	教授	ナカムラ ヤスヒロ 中村 保宏	〈平成28年4月〉	病理学 病理学実習 環境疾病学 基礎-臨床統合演習						
専任	教授	モリグチ タカシ 森口 尚	〈平成28年4月〉	基礎化学実習 医化学 医化学実習 遺伝学 基礎-臨床統合演習	専任	教授	モリグチ タカシ 森口 尚	〈平成28年4月〉	基礎化学 医化学 基礎化学実習 医化学実習 遺伝学 基礎-臨床統合演習	
専任	教授	カンダ テル 神田 輝	〈平成28年4月〉	微生物学 I 微生物学実習 基礎-臨床統合演習						
専任	教授	ナカムラ アキラ 中村 晃	〈平成28年4月〉	遺伝学 免疫学 免疫学実習 基礎-臨床統合演習	専任	教授	ナカムラ アキラ 中村 晃	〈平成28年4月〉	細胞生物学 遺伝学 免疫学 免疫学実習 基礎-臨床統合演習	
専任	教授	クリマサ アキヒロ 栗政 明弘	〈平成28年4月〉	放射線基礎医学 放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	専任	教授	クリマサ アキヒロ 栗政 明弘	〈平成28年4月〉	放射線基礎医学 放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	
専任	教授	コイヌマ ノブオ 濃沼 信夫	〈平成28年4月〉	医療管理学 統括講義						
専任	教授	メトキ ヒロヒト 目時 弘仁	〈平成28年4月〉	衛生学 衛生学体験学習 環境疾病学 統括講義	専任	教授	メトキ ヒロヒト 目時 弘仁	〈平成28年4月〉	医療コミュニケーション学 衛生学 衛生学体験学習 環境疾病学 統括講義	
専任	教授	タカギ テツヤ 高木 徹也	〈平成28年4月〉	医学概論 医事法学 法医学 患者安全・医療倫理学 統括講義	専任	教授	タカギ テツヤ 高木 徹也	〈平成28年4月〉	法医学 医学概論 医事法学 患者安全・医療倫理学 統括講義	
専任	教授	エビナ マサヒト 海老名 雅仁	〈平成28年4月〉	呼吸器学(内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						

専任	教授	カメオカ ジュンイチ 亀岡 淳一	〈平成30年4月〉	血液学 臨床分子遺伝学 症候学 基礎-臨床統合演習						
専任	教授	フルカワ カツトシ 古川 勝敏	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 高齢者医学 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 地域総合診療実習 地域包括医療実習 統括講義						
専任	教授	オガワ エイシン 小川 英伸	〈平成29年4月〉	小児科学 臨床分子遺伝学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	シバタ チカシ 柴田 近	〈平成28年4月〉	消化器学（内科・外科） 全身管理学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 統括講義	専任	教授	シバタ チカシ 柴田 近	〈平成28年4月〉	チーム医療体験学習 消化器学（内科・外科） 全身管理学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 統括講義	
専任	教授	コンドウ タカシ 近藤 丘	〈平成28年4月〉	呼吸器学（内科・外科） 移植医療学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	タバタ トシハル 田畑 俊治	〈平成28年4月〉	呼吸器学（内科・外科） 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	スズキ アキヒコ 鈴木 昭彦	〈平成29年4月〉	内分泌学・代謝学 乳房外科学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	ボク エイシン 朴 英進	〈平成28年4月〉	乳房外科学 診療科臨床実習						
専任	教授	カワモト シュンスケ 川本 俊輔	〈平成29年10月〉	循環器学（内科・外科） 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	オザワ ヒロシ 小澤 浩司	〈平成28年4月〉	整形外科 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	ササキ タツヤ 佐々木 達也	〈平成30年4月〉	神経学（内科・外科） 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	オカ マサヒロ 岡 昌宏	〈平成29年4月〉	皮膚科学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 統括講義	専任	教授	オカ マサヒロ 岡 昌宏	〈平成28年4月〉	皮膚科学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 統括講義	
専任	教授	ワタナベ ヨウ 渡部 洋	〈平成29年4月〉	医学概論 産科学・婦人科学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	ワタナベ ヨウ 渡部 洋	〈平成28年6月〉	医療コミュニケーション学 医学概論 産科学・婦人科学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	

兼任	教授	ワタナベ ヨウ 渡部 洋	〈平成28年4月〉	医学概論						
専任	教授	サトウ マコト 佐藤 信	〈平成29年4月〉	腎・泌尿器学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	フクダ ヒロシ 福田 寛	〈平成28年4月〉	放射線医学 被ばく医療演習 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	コヤマ カネキ 小山 周樹	〈平成28年4月〉	被ばく医療演習 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	タカハシ シンイチロウ 高橋 伸一郎	〈平成28年4月〉	臨床検査学 基本的診療技能 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	オオノ イサオ 大野 勲	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 医療コミュニケーション学 チーム医療体験学習 課題研究	専任	教授	オオノ イサオ 大野 勲	〈平成28年4月〉	大学基礎論 医療コミュニケーション学 早期医療体験学習 チーム医療体験学習 課題研究	
専任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 賢一	〈平成29年4月〉	消化器学（内科・外科） 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	スズキ エイジ 鈴木 映二	〈平成28年4月〉	精神科学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	スズキ エイジ 鈴木 映二	〈平成28年4月〉	医療コミュニケーション学 精神科学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	
専任	教授	オオタ ノブオ 太田 伸男	〈平成28年4月〉	耳鼻咽喉科学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	ホサカ カヨコ 保坂 佳代子	平成28年4月	基礎生物学 基礎生物学実習 生理学実習	専任	助教	ハヤシ モユル 林 もゆる	〈平成28年10月〉	基礎生物学 基礎生物学実習 生理学実習	
専任	准教授	サカモト カズヒロ 坂本 一寛	〈平成28年4月〉	生理学実習						
専任	准教授	ナカムラ タダホ 中村 正帆	〈平成28年4月〉	薬理学実習 臨床薬理学						
専任	准教授	カサジマ アツコ 笠島 敦子	〈平成28年4月〉	病理学 病理学実習 環境疾病学	専任	准教授	カサジマ アツコ 笠島 敦子	〈平成30年4月〉	病理学 病理学実習 環境疾病学	
専任	准教授	ムラカミカズヒロ 村上 一宏	〈平成28年4月〉	病理学 病理学実習						

専任	准教授	イクタ カズフミ 生田 和史	〈平成28年4月〉	微生物学Ⅱ 微生物学実習						
専任	准教授	クワハラ ヨシカズ 桑原 義和	〈平成28年4月〉	放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	専任	准教授	クワハラ ヨシカズ 桑原 義和	〈平成28年4月〉	放射線基礎医学	
専任	准教授	イトウ ミチヤ 伊藤 道哉	〈平成28年4月〉	医事法学						
専任	准教授	タカハシ ヒデノリ 高橋 秀徳	〈平成29年4月〉	呼吸器学（内科・外科） 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	メグロ タカヨシ 目黒 敬義	〈平成28年4月〉	消化器学（内科・外科） 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	コデラ タカオ 小寺 隆雄	〈平成28年4月〉	臨床免疫・アレルギー学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	サトウ シゲル 佐藤 滋	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療学 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習	専任	准教授	サトウ シゲル 佐藤 滋	〈平成29年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療学 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習	
専任	准教授	オオハラ タカヒロ 大原 貴裕	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療学 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習						
専任	准教授	フジモリ ジュイチ 藤盛 寿一	〈平成28年4月〉	神経学（内科・外科） 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	キバ タカヨシ 木場 崇剛	〈平成28年4月〉	医学概論 臨床分子遺伝学 診療科臨床実習						
専任	准教授	ナカガワ セイシュウ 中川 誠秀	〈平成28年4月〉	精神科学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	ヨシムラ アツシ 吉村 淳	〈平成28年4月〉	精神科学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	フジイ ヨシミツ 藤井 喜充	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						

専任	准教授	ウエマツ ミツグ 植松 貢	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	オガワ ヒトシ 小川 仁	〈平成28年4月〉	消化器学（内科・外科） 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	ナカノ トオル 中野 徹	〈平成29年4月〉	消化器学（内科・外科） 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	イシズカ マサト 石塚 正人	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	ハヤシ トシアキ 林 俊哲	〈平成30年4月〉	神経学（内科・外科） 診療科臨床実習						
専任	准教授	フクナガ（カラビス）ミズ ホ 福永（カラビス） 瑞穂	〈平成29年4月〉	皮膚科学 統括講義						
専任	准教授	スズキ タカヒロ 鈴木 貴博	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	ヤギヌマ ユウジ 八木沼 裕司	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	ナカニシ トオル 中西 透	〈平成30年4月〉	産科学・婦人科学 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	准教授	ナカニシ トオル 中西 透	〈平成28年4月〉	産科学・婦人科学 診療科臨床実習 総合診療学演習	
専任	准教授	ワタナベ タダシ 渡辺 正	〈平成28年4月〉	産科学・婦人科学 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	准教授	カイホウ ヤスヒロ 海法 康裕	〈平成29年4月〉	腎・泌尿器学 診療科臨床実習						
専任	准教授	タムラ リョウ 田村 亮	〈平成28年4月〉	被ばく医療演習 診療科臨床実習						
専任	准教授	ムロヤ ヨシカズ 室谷 嘉一	〈平成29年4月〉	全身管理学 診療科臨床実習	専任	准教授	ムロヤ ヨシカズ 室谷 嘉一	〈平成28年4月〉	全身管理学 診療科臨床実習	
専任	准教授	イシダ ヌスケ 石田 雄介	〈平成28年4月〉	神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習						

専任	准教授	カタヒラ ヨシアキ 片平 美明	〈平成28年4月〉	循環器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	コマル タツヤ 小丸 達也	〈平成30年4月〉	循環器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	オオロイ タカシ 大類 孝	〈平成29年4月〉	呼吸器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	ヤマモト タケシ 山本 毅	〈平成28年4月〉	消化器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	アカイ ヒロアキ 赤井 裕輝	〈平成28年4月〉	内分泌学・代謝学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	モリ タケフミ 森 建文	〈平成28年4月〉	腎・泌尿器学 症候学 移植医療学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	スミトモ カズヒロ 住友 和弘	〈平成28年4月〉	地域医療学 僻地・被災地医療体験学習 習Ⅰ 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習 習Ⅱ 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 地域総合診療実習 地域包括医療実習 統括講義						
専任	准教授	ナカシマ イチロウ 中島 一郎	〈平成29年4月〉	神経学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	シモダイラ ヒデキ 下平 秀樹	〈平成29年4月〉	腫瘍学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 統括講義						
専任	准教授	モリモト テツジ 森本 哲司	〈平成28年4月〉	小児科学 臨床分子遺伝学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	ナルシマ ヨウイチ 成島 陽一	〈平成30年4月〉	消化器学 (内科・外科) 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	タカハシ ヒデトシ 高橋 秀肇	〈平成28年4月〉	眼科学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	ショウジ フミ 東海林 史	〈平成28年4月〉	耳鼻咽喉科学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						

専任	准教授	イトウ オサム 伊藤 修	〈平成29年4月〉	全身管理学 診療科臨床実習 統括講義						
専任	准教授	エンドウ トモユキ 遠藤 智之	〈平成28年4月〉	救急医療学 災害医療学 救急・災害医療体験学習 環境疾病学 基本的診療技能 診療科臨床実習 統括講義						
専任	准教授	セキ マサフミ 関 雅文	〈平成28年4月〉	感染症学 診療科臨床実習 統括講義						
専任	准教授	テヅカ ノリアキ 手塚 則明	〈平成29年4月〉	医療安全学						
兼任	准教授	テヅカ ノリアキ 手塚 則明	〈平成28年4月〉	医療安全学						
					専任	准教授	サトウ ヒロノリ 佐藤 大希	〈平成28年10月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	
									診療科臨床実習	
専任	講師	ウエムラ サトシ 上村 聡志	〈平成28年4月〉	基礎化学 基礎化学実習 医化学 医化学実習	専任	講師	ウエムラ サトシ 上村 聡志	〈平成28年4月〉	基礎化学 医化学 基礎化学実習 医化学実習	
専任	講師	カイフ トモノリ 海部 知則	〈平成28年4月〉	細胞生物学 免疫学実習	専任	講師	カイフ トモノリ 海部 知則	〈平成28年4月〉	細胞生物学 免疫学実習	
専任	講師	ナカノ タカオ 中野 陽夫	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	ヤンベ ミノル 山家 実	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	ミヤシタ タケヒコ 宮下 武彦	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	コバヤシ タカオ 小林 隆夫	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	ヨシヅミ シンスケ 善積 信介	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	オオグチ ヒロト 大口 裕人	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	コバヤシ ミチコ 小林 理子	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						

専任	講師	イワサシ 岩指 元	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	テシマ 手島 仁	平成29年4月	診療科臨床実習 総合診療学演習			後任未定			
専任	講師	コヤマ 見山 香	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	講師	コヤマ 見山 香	〈平成28年4月〉	医療コミュニケーション学 診療科臨床実習 総合診療学演習	
専任	講師	ムコウダ 向田 和明	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	イシバシ 石橋 直也	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	ワタナベ 渡部 剛	〈平成29年4月〉	内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	シバヤ 渋谷 拓見	平成28年4月	診療科臨床実習 総合診療学演習			後任未定			
専任	講師	サカグチ 坂口 正展	〈平成29年4月〉	診療科臨床実習	専任	講師	サカグチ 坂口 正展	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習	
専任	講師	サトウ 佐藤 尚明	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	ヨシダ 吉田 明子	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習						
専任	講師	カワゾエ 川副 友	〈平成29年4月〉	救急・災害医療学体験学 習 診療科臨床実習						
専任	講師	オキツ(スガワラ) 沖津 (菅原) 庸子	〈平成30年4月〉	移植医療学						
専任	講師	コイズミ 小泉 賢治	〈平成29年4月〉	全身管理学						
専任	講師	ホシ 星 邦彦	〈平成28年4月〉	全身管理学 麻酔学 診療科臨床実習 統括講義						
専任	講師	イワクラ 岩倉 芳倫	〈平成28年4月〉	腎・泌尿器学 内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習						

専任	講師	スガワラ タカフミ 菅原 崇史	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	ワタナベ スグル 渡辺 卓	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	サイゴウ ヨウコ 西郷 陽子	〈平成28年4月〉	移植医療学 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					専任	講師	ニブヤ マサシ 丹生谷 正史	〈平成29年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習	
専任	助教	ヤマモト ヌイ 山本 由似	〈平成28年4月〉	解剖学実習 組織学実習						
専任	助教	マゴメ タクヤ 馬込 卓弥	平成28年4月	解剖学実習 組織学実習			後任未定			
専任	助教	アジマ (キシ) クミコ 安嶋 (岸) 久美子	〈平成28年4月〉	基礎生物学実習 生理学実習	専任	助教	アジマ (キシ) クミコ 安嶋 (岸) 久美子	〈平成29年4月〉	基礎生物学実習 生理学実習	
					兼任	講師	アジマ (キシ) クミコ 安嶋 (岸) 久美子	〈平成28年4月〉	基礎生物学実習	
専任	助教	ニシムラ ヨシアキ 西村 嘉晃	〈平成28年4月〉	生理学実習						
専任	助教	ナガスマ フミト 長沼 史登	〈平成28年4月〉	薬理学実習						
専任	助教	ハタ シュウコ 端 秀子	〈平成28年4月〉	病理学実習						
専任	助教	フカヤ サチコ 深谷 佐智子	〈平成28年4月〉	病理学実習						
専任	助教	オオツキ アキヒト 大槻 晃史	〈平成28年4月〉	基礎化学実習 医化学実習	専任	助教	オオツキ アキヒト 大槻 晃史	〈平成28年4月〉	基礎化学 医化学 基礎化学実習 医化学実習	
専任	助教	タケダ カズヤ 武田 和也	〈平成28年4月〉	免疫学実習	専任	助教	タケダ カズヤ 武田 和也	〈平成28年9月〉	免疫学実習	
専任	助教	カトウ アキヒロ 加藤 晃弘	〈平成28年4月〉	放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習						

専任	助教	オガタ トモアキ 尾形 倫明	〈平成28年4月〉	医事法学						
専任	助教	サトウ ミチヒロ 佐藤 倫広	〈平成28年4月〉	衛生学体験学習	専任	助教	サトウ ミチヒロ 佐藤 倫広	〈平成28年4月〉	衛生学	
専任	助教	ヤマダ チホ 山田 千歩	〈平成28年4月〉	医事法学 法医学	専任	助教	ヤマダ チホ 山田 千歩	〈平成28年4月〉	法医学	
専任	助教	ヤマナカ タモン 山中 多聞	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習	専任	助教	カドワキ シンペイ 門脇 心平	〈平成28年10月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習	
専任	助教	セキグチ ニウコ 関口 祐子	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	コンドウ シホ 近藤 史帆	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ハセクラ サヤカ 支倉 さやか	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ハセクラ ショウタロウ 支倉 翔太郎	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ヤマト カズミ 大和 一美	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	ホンマ ミドリ 本間 緑	平成28年4月	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	助教	タンジ ヤスヒロ 丹治 泰裕	〈平成28年10月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	
専任	助教	イケノウエ タツヨシ 池之上 辰義	〈平成30年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					兼任	講師	イケノウエ タツヨシ 池之上 辰義	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習	
専任	助教	サトウ シンイチ 佐藤 真一	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	助教	サトウ シンイチ 佐藤 真一	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	
専任	助教	ヤバナ イクコ 矢花 郁子	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						

専任	助教	オカ ユミコ 岡 友美子	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習						
専任	助教	マスダ マモル 増田 衛	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習 I 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習 II 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習	専任	助教	マスダ マモル 増田 衛	〈平成29年4月〉	僻地・被災地医療体験学習 I 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習 II 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習	
専任	助教	カワグチ ノリヒコ 川口 典彦	〈平成28年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	クドウ チエコ 工藤 千枝子	〈平成29年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習						
					兼任	講師	クドウ チエコ 工藤 千枝子	〈平成28年9月〉	チーム医療体験学習	
専任	助教	カワイ エイチロウ 川合 英一郎	〈平成30年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					兼任	講師	カワイ エイチロウ 川合 英一郎	〈平成28年9月〉	チーム医療体験学習	
専任	助教	キタザワ ヒロシ 北沢 博	〈平成30年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					兼任	講師	キタザワ ヒロシ 北沢 博	〈平成28年9月〉	チーム医療体験学習	
専任	助教	イノウエ コウエツ 井上 享悦	〈平成30年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					兼任	講師	イノウエ コウエツ 井上 享悦	〈平成28年9月〉	チーム医療体験学習	
専任	助教	キムラ シュンイチ 木村 俊一	〈平成28年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	アラキ タカアキ 荒木 孝明	〈平成28年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	オザワ ヨウヘイ 小澤 洋平	〈平成29年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						

					兼任	講師	オザワ ヨウヘイ 小澤 洋平	〈平成28年9月〉	チーム医療体験学習	
専任	助教	ヤブキ ヒロシ 矢吹 皓	〈平成29年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	教授	サガワ モトヤス 佐川 元保	〈平成28年10月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習	
					専任	助教	キクタ ヒサシ 菊田 寿	〈平成28年10月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習	
専任	助教	コヤナギ アキラ 小柳 彰	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	サトウ マミ 佐藤 真実	〈平成29年4月〉	僻地・被災地医療体験学習 I 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	タカギ マユ 高木 まゆ	〈平成29年4月〉	僻地・被災地医療体験学習 I 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	ミナガワ タダノリ 皆川 忠徳	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習 I 診療科臨床実習						
専任	助教	ニシダ ヒデフミ 西田 秀史	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習 I 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	助教	ニシダ ヒデフミ 西田 秀史	〈平成29年4月〉	僻地・被災地医療体験学習 I 診療科臨床実習 総合診療学演習	
専任	助教	タテダ サトシ 館田 聡	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習 II 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	チバ シンペイ 千葉 晋平	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習 II 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	カワグチ トモヒロ 川口 奉洋	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習						
専任	助教	ショウジ タクヒロ 庄司 拓大	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習						
専任	助教	ウチダ ヒロキ 内田 浩喜	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習						
専任	助教	タダ アサコ 多田 麻子	〈平成28年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	ハリヤ タクヒロ 針谷 威寛	〈平成29年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						

専任	助教	ノグチ ナオヤ 野口 直哉	〈平成28年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	カクタ リサコ 角田 梨紗子	〈平成28年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	ウガジン トモヒサ 宇賀神 智久	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	キタガワ リョウ 喜多川 亮	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	イトウ ジュン 伊藤 淳	〈平成29年4月〉	介護・在宅医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	コヅミ マイコ 古積 麻衣子	〈平成29年4月〉	被ばく医療演習 診療科臨床実習						
専任	助教	コダカ ノゾミ 小高 望	〈平成29年4月〉	被ばく医療演習 診療科臨床実習						
専任	助教	マツウラ トモノリ 松浦 智徳	〈平成29年4月〉	被ばく医療演習 診療科臨床実習						
専任	助教	オオヤマ チカ 大山 千佳	〈平成28年4月〉	介護・在宅医療体験学習 診療科臨床実習	専任	講師	キクチ ヒロカズ 菊池 大一	〈平成28年10月〉	介護・在宅医療体験学習 診療科臨床実習	
専任	助教	ウツミ ヨシヤ 内海 由也	〈平成28年4月〉	介護・在宅医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ミヤガワ ノリコ 宮川 乃理子	〈平成30年4月〉	救急・災害医療学体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ムラカミ タカヒサ 村上 任尚	〈平成28年4月〉	衛生学体験学習 公衆衛生学	専任	助教	ムラカミ タカヒサ 村上 任尚	〈平成28年4月〉	衛生学 衛生学体験学習 公衆衛生学	
専任	助教	ナガヤ ケイ 長屋 慶	〈平成28年4月〉	麻酔学 診療科臨床実習						
専任	助教	ヨネチ マコト 米地 真	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	イシガキ アヤ 石垣 あや	〈平成28年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						

専任	助教	イトウ ヨウスケ 伊藤 洋介	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習						
専任	助教	ミヤザワイザベル (ティエ エポーズ ミヤザワ イザ ベル マリーオデット) 宮澤 イザベル (TILLET EPOUSE MIYAZAWA ISABELLE MARIE ODETTE)	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学 習 I 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学 習 II	専任	助教	ティエ エポーズ ミヤザワ イザベル マリー オデット TILLET EPOUSE MIYAZAWA ISABELLE MARIE ODETTE (宮澤イザ ベル)	〈平成28年4月〉	医療コミュニケーション 学	僻地・被災地医療体験学 習 I 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学 習 II
					専任	助教	ナラ アキナ 奈良 明奈	〈平成28年10月〉	法医学	
					専任	助教	スミヨシ タケノリ 住吉 剛忠	〈平成28年10月〉	僻地・被災地医療体験学 習 I	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	ハセガワ カオル 長谷川 薫	〈平成28年10月〉	介護・在宅医療体験学習	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	ミネギシ ハナエ 峯岸 英絵	〈平成28年10月〉	介護・在宅医療体験学習	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	フケ リョウタ 福家 良太	〈平成28年10月〉	救急・災害医療体験学習	
									診療科臨床実習	
兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習						
兼任	教授	タナハシ コウタロウ 棚橋 浩太郎	〈平成28年4月〉	数学 I (基礎編) 大学基礎論 数学 II (応用・統計編)						
兼任	教授	グ チェゴ 顧 建国	〈平成28年4月〉	医学英語 VI						
兼任	教授	ヤマシタ タケシ 山下 剛	〈平成28年4月〉	大学基礎論 人と文化						
兼任	教授	ホソノ マサヒロ 細野 雅祐	〈平成28年4月〉	医学英語 V						
兼任	教授	ササキ カツユキ 佐々木 克之	〈平成28年4月〉	スポーツ科学 (体育実 技) 大学基礎論 からだと健康						
兼任	教授	コジマ リョウイチ 小島 良一	〈平成28年4月〉	医学英語 I 大学基礎論 医学英語 II 医学英語 IV						
兼任	教授	トミタ ミキオ 富田 幹雄	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						

兼担	教授	スズキ ツネヨシ 鈴木 常義	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼担	教授	ナガタ キヨシ 永田 清	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼担	教授	ナカムラ ヒトシ 中村 仁	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼担	教授	カトウ タダシ 加藤 正	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼担	教授	ヨシムラ ニウイチ 吉村 祐一	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼担	准教授	スギヤマ マサヒロ 杉山 雅宏	〈平成28年4月〉	心の科学 行動心理学 大学基礎論						
兼担	准教授	ヤオイタ ヤスノリ 八百板 康範	〈平成28年4月〉	医学英語V						
兼担	准教授	イエタカ ヒロシ 家高 洋	〈平成28年4月〉	倫理学 大学基礎論 哲学						
兼担	准教授	フジイ ヌウ 藤井 優	〈平成28年4月〉	大学基礎論 基礎物理学 基礎物理学実習						
兼担	講師	スガワラ ミカ 菅原 美佳	〈平成28年4月〉	医学英語 I 大学基礎論 医学英語 II 医学英語 IV						
兼担	講師	カワカミ ジュンコ 川上 準子	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習						
兼担	講師	ホシ ケンジ 星 憲司	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習						
兼担	講師	サマタ ノリヒト 佐俣 紀仁	〈平成28年4月〉	大学基礎論 法学						
兼担	助教	イサジ トモヤ 伊左治 知弥	〈平成28年4月〉	医学英語VI						
兼担	助教	フカセ (カトウ) ユカコ 深瀬 (加藤) 友香子	〈平成28年4月〉	スポーツ科学 (体育実 技) 大学基礎論 からだ健康						

兼任	助教	キド サオリ 木戸 紗織	〈平成28年4月〉	ドイツ語 I 大学基礎論 ドイツ語 II						
					兼任	助教	アオキ ソラマ 青木 空真	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習	
兼任	講師	ウエダ コウスケ 上田 耕介	〈平成28年4月〉	現代社会と人間						
兼任	講師	カスヤ マサシ 糟谷 昌志	〈平成28年4月〉	経済学						
兼任	講師	ウラヤマ キカ 浦山 きか	〈平成28年4月〉	中国語 I 科学と歴史 中国語 II						
兼任	講師	タカハシ アキノリ 高橋 章則	〈平成28年4月〉	文章論						
兼任	講師	マックス フィリップス ジュニア Max Phillips Jr.	〈平成28年4月〉	医学英語 III						
兼任	講師	ペラン アレクサンドラ PERRIN Alexandra	〈平成28年4月〉	フランス語 I フランス語 II	兼任	講師	リヴィオ ギヨーム Livio GUILLAUME	〈平成28年4月〉	フランス語 I フランス語 II	
兼任	講師	キヨタ マサトモ 清田 雅智	〈平成28年4月〉	地域医療学 地域総合診療実習						
					兼任	講師	エンドウ ソウ 遠藤 壮	〈平成28年4月〉	スポーツ科学 (体育実 技)	
					兼任	講師	オオノ セイゴ 大野 誠吾	〈平成28年4月〉	基礎物理学実習	
					兼任	講師	カナタ マサシ 金田 雅司	〈平成28年4月〉	基礎物理学実習	
					兼任	講師	カンダ ヒロキ 神田 浩樹	〈平成28年4月〉	基礎物理学実習	
					兼任	講師	ハラダ ケンイチ 原田 健一	〈平成28年4月〉	基礎物理学実習	
					兼任	講師	マエダ カズシゲ 前田 和茂	〈平成28年4月〉	基礎物理学実習	

					兼任	講師	ミズサワ アキコ 水澤 亜紀子	〈平成28年9月〉	医療コミュニケーション学	
					兼任	講師	クボタ カズコ 久保田 和子	〈平成28年9月〉	医療コミュニケーション学	
					兼任	講師	イケハタ ヒロノブ 池畑 広伸	〈平成28年9月〉	医化学	
					兼任	講師	ウルノ アキラ 宇留野 晃	〈平成28年9月〉	医化学	
					兼任	講師	スズキ ミキコ 鈴木 未来子	〈平成28年9月〉	医化学	
					兼任	講師	セキネ ヒロキ 関根 弘樹	〈平成28年9月〉	医化学	
					兼任	講師	ナカガワ クニトシ 中川 國利	〈平成28年9月〉	チーム医療体験学習	
					兼任	講師	フクモト マナブ 福本 学	〈平成28年9月〉	放射線基礎医学	

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成28年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 専任教員数

	設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
医学部 医学科	34 (25)	49 (34)	25 (19)	50 (34)	158 (112)	26	33	19	37	115	36 [2]	49 [0]	28 [3]	69 [19]	182 [24]
附属 病院	- (-)	- (-)	2 (-)	13 (10)	15 (10)	-	-	0	7	7	- [-]	- [-]	2 [-]	11 [Δ2]	13 [Δ2]
教養教育 センター	4 (4)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	11 (11)	4	3	2	2	11	4 [-]	3 [-]	2 [-]	2 [-]	11 [-]

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記 (A)）の教員のうち、定年を延長して採用している	完成年度時（上記 (B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	14 名

- (注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区分	留意事項等	留意事項	履行状況	未履行事項についての実施計画
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>1. 修学資金枠55人と一般枠45人という入学者枠の運用に当たっては、地域への医師定着や震災復興等、東北地方に新たに医学部を設置することとなった経緯や趣旨が損なわれることのないよう留意すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>修学資金受給の有無にかかわらず、全ての学生が東北六県のいずれかを訪問・滞在し学ぶ地域滞在型の地域医療教育を行う。一般枠の学生の配置県を決定するために、「大学基礎論」の講義の中に、各県の担当者が来学して「各県の歴史・文化、医療の姿、研修体制」などを紹介する講義を設定した。学生は紹介内容をもとに希望県を申請し、東北6県のバランスを考慮しながら配置県を教務委員長が決定する。また、少人数教育、グループ学習については、一般枠学生だけで構成されることのないよう、配慮する。一般枠学生も入学試験の小論文および面接によって東北地方の地域医療への熱意があると判断されて入学しており、特徴ある地域医療教育により、さらに熱意と使命感を醸成し卒後の東北地方定着をめざす。また、同様の趣旨より、一般枠学生からの奨学金の相談に対しては、上記の配置県の自治体および自治体病院による奨学金を紹介していく体制を、学生委員会の業務の一つとして、構築した(28)</p>	<p>-</p>
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>2. 卒業後の取組として挙げられている「医師循環システムの構築」について、その概要は理解できるものの、システムの運用に向けた学内の体制やプロセス等については具体的な内容が明確に示されておらず不明瞭である。そのため、本計画が本学医学部の特色として十分に機能する形で実施できるよう、学内の体制整備等、実施に向けた環境整備を万全にすること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>宮城県における『医師循環システム』の構築について説明する。8年後には、A方式修学資金枠30名および宮城県一般枠医学生修学資金を受けた一般枠学生が宮城県内の病院に勤務することになる。宮城県内の病院群を規模と機能を考慮して大、中、小病院に分けて、これらを2年間程度ごとに循環して医師として研鑽を積み地域医療に貢献するとともに、キャリア・アップを計るシステムを構築するために、宮城県（修学資金出資者）と協議を開始したところである。なお、宮城県には「宮城県医師育成機構」があり、東北大学医学部が中心となり、宮城県医師会、県内の主要病院の院長および宮城県当局が協力して医師の臨床研修のサポート、および県内病院の医師適正配置について調整を行ってきた。本年4月1日より、福田医学部長、および近藤統括病院長が理事として同機構に加わることになり、活動を開始したところである。また、卒後の研究やキャリア形成を支援する学内組織として、卒後研修担当教授をセンター長とする「卒後研修センター」と地域医療学教授をセンター長とする「地域医療総合支援センター」を立ち上げた。「卒後研修センター」による研修の支援・研修プログラムの管理と「地域医療総合支援センター」による研修期間の診療支援の両輪により、『医師循環システム』を効果的に動かしながらキャリア形成を支援し、地域定着につなげる。現時点では、「地域医療総合支援センター」は、本学医師の地域病院への派遣（当面は非常勤医師）を調整する組織として機能させる。これらを通じて積み上げた地域病院への医師派遣実績を「医師循環システムの構築」に反映させる(28)</p>	<p>今後、「医師循環システム」の構築と運用について、宮城県医師育成機構の協力・支援を求める。宮城県以外の東北5県については、修学資金を受給したA方式1名、B方式平均4名の卒業生が勤務することになる。この5名を適切に循環させるために、当該県独自の修学資金受給医師（他大学医学部卒業）の循環システムの中に組み入れて貰うよう、県当局および地元医学部の協力を要請する予定である(28)</p>

<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>3. 「医療薬学概論」の内容の一部が他の薬学系科目の内容と重複していると思われることから、他の薬学系科目を含めて全体として体系的な教育が行われるよう、科目内容の精査を行い必要に応じて修正をすること。なお、現在示されている科目内容においては、薬学の知識として重要と考えられる「創薬」に関する内容が十分に含まれておらず取り扱う内容がやや偏っていると思われることから、科目内容の精査・修正に当たっては、「創薬」に関する内容が十分に盛り込まれるよう留意すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>未履行</p>	<p>薬学系科目の内容を、特に「創薬」に関する内容を含め体系的に教育できるよう、「医療薬学概論」の内容を修正する。具体的には、基礎化学（医薬品の構造と活性、合成化学）とその応用である創薬化学や製剤・調剤学、さらに、体内動態からみた副作用など臓器横断的な学習内容、実際の薬物治療における薬剤師の役割と薬害防止などを、本学薬学部の各分野の専門教員に教授してもらう。シラバス作成に当たっては、医学部関連科目の担当教員と内容について十分なすり合わせを行う予定である(28)</p>
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>4. シラバスは、旧来のGIO、SBOではなく、卒業時における到達目標を定め、それに従って各科目を位置付けた上で、評価方法についても明示するなど、グローバルスタンダードである学習成果基盤型教育に則って記載することが望ましい。</p>	<p>留意事項</p>	<p>シラバスは、グローバルスタンダードである学習成果基盤型教育に則って作成した。すなわち、卒業時に修得しておくべき3つのアウトカムを設定し、そのために身につけるべき8つの能力を明記した。シラバスには、各科目の学習において、その8つの能力ごとに達成すべきレベルと授業方法および評価方法を記載した。また、シラバスには、能力を段階的に身につけていく上で関連する科目を記載し、科目間の関連性をカリキュラムツリーとして示した。学習成果基盤型教育については、『学生便覧・シラバス 平成28年度』に記載し、また、入学時のオリエンテーションの際に詳細に説明を行った(28)</p>	<p>今後、8つの能力のそれぞれについて、より詳細・具体的な達成目標を設定していく予定である(28)</p>
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>5. 教室名称については、患者や学生にとって分かりやすいものであることが望ましいが、内科学と外科学の教室に用いられる「第一～第三」という名称は便宜的な印象を与えるもので、それが妥当なものであるか検討し、必要であればより分かりやすい名称に変更すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本学の使命が、「地域医療に貢献できる幅広い診療能力を持った総合診療医の養成」であることを考慮し、内科学および外科学だけは大講座制を採用した。内科学第一教室では循環器内科学および呼吸器内科学のそれぞれ専門性を活かしながら、一つの教室の中で専門外の領域も容易に勉強できるという、医師（特に若い医師）にとっての利点がある。この点は学ぶ学生にとっても利点と考える。また、附属病院では、循環器内科、呼吸器内科という診療科名のもとで診療を行うので（教室名は表示しない）、患者にとっても学生にとっても分かりにくいという事態は生じない。さらに、同一教室内であるために容易にコンサルトでき、患者を転科させることなく教室内の仲間から支援を受けながら、診療を行うことが可能となる。少しでも専門が違えば、多科への紹介・転科が頻繁に行われることが大病院の弊害と言われている。教室（講座）を専門別にした場合は、専門内容が患者や学生にとってわかりやすいという利点はあるが、教室間の壁により、いくつかの弊害が生じることが指摘されている。数字ではなく、大講座の全体像を表す名称を用いることも可能であるが、「第一～第三」の教室名は後ろにカッコ書きで診療科名を入れて、下記のとおり教室名とした(28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「内科学第一」を「内科学第一（循環器内科）」「内科学第一（呼吸器内科）」に変更。 ・「内科学第二」を「内科学第二（消化器内科）」「内科学第二（糖尿病代謝内科）」に変更。 ・「内科学第三」を「内科学第三（腎臓内分泌内科）」「内科学第三（血液・リウマチ科）」に変更。 ・「外科学第一」を「外科学第一（肝胆膵外科）」「外科学第一（消化器外科）」に変更。 ・「外科学第二」を「外科学第二（呼吸器外科）」に変更。 ・「外科学第三」を「外科学第三（乳腺・内分泌外科）」に変更。 	<p>—</p>

<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>6. 附属病院の整備計画について、以下の各点に留意すること。 (1) 診療に当たる医師数を学部開設後も段階的に増加させ、完成年度時点で260人程度の規模とする計画について、附属病院の診療要員の確保は医学部の教育を実施する上でも重要なものであることから、適切な人員が確保できるよう計画を着実に実行すること。 (2) 新病棟の建設や仙台医療圏の2病院の統合等、学部開設後も機能拡充に向けた動きが続くことから、これらの動きが円滑に行われるよう、計画を着実に実行すること。 (3) 既存の他大学医学部の附属病院と遜色のない高度な運営基盤の構築が早期に行われるよう、スタッフ数や施設設備等の更なる増強を可能な限り早期に行うことが望ましい。</p>	<p>留意事項</p>	<p>(1) 平成28年4月には、外部機関からの医学部教員採用及び第3病院の譲受けがあり、医師の総数としては、計151名(本院117名+第3病院34名)確保している。 (2) 平成28年4月に第3病院(199床)の譲受けは完了しており(「東北医科薬科大学 若林病院」として運営)、医学部附属病院として目安となる600床以上の教育環境を確保している。 (3) 平成28年度から、診療科として従来の22診療科から28診療科に機能を強化した。(「腎臓内分泌内科」「感染症内科」「乳腺・内分泌外科」「小児科」「病理診断科」「救急科」を新たに開設)※「歯科」も「歯科口腔外科」に機能強化</p>	<p>(1) 平成29年度より、第2教育研究棟、第1教育研究棟、新病院棟が約1年間隔で3年かけて順次整備され、教員を収容するスペースが段階的に拡大していくのに合わせて段階的に教員数を確保するように、公募などにより計画的に増員していく予定である。現時点での計画としては、平成29年度に33名、平成30年度に30名、平成31年度以降は完成年度まで毎年15名ずつの採用を計画しており、総数としては計259名程度を目指している。(28) (2) 東北医科薬科大学病院と若林病院の機能を少しずつ見直し、効率のよい医療提供の場、そして臨床教育実践の場となるように工夫していく予定である。同じような診療科については、双方の協議のもとに診療内容の分担なども検討する。新病院棟完成と2病院再編統合までの間、2つの病院の特徴を活かして臨床研修医の獲得などに努力する。 1病院を譲り受けたことにより、教育上必要な診療科を備え、教育・研究体制を整えつつある。大学病院の機能をさらに充実させるため、現在交渉中である第2病院(約60床)の譲受けについて、引き続き最大限の努力をする。現時点では、概ね折り合いがうまく見通しを持っている。(28) (3) 医師以外の医療スタッフを徐々に増員するとともに、新病院棟完成までの間も救急センターの整備、MRIの増設、手術機器類の更新増設(眼科、脳外科、泌尿器科、整形外科)、産科医療再開のための施設改修などを進め、医療の広がりとともに厚みも増すような対応を進める。新病院棟完成時には手術用ロボットの導入、最新の放射線治療装置、ハイブリッド手術室などの最新機器、設備の稼働を計画している(28)</p>
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>7. 教員の補充を必要とされた8授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた3授業科目については、確実に専任教員を配置すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>未履行</p>	<p>ご指摘の8科目について、留意事項6への対応に連動させて、科目開講時までに教員を補充する予定である(28)</p>
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>「医師循環システム」のモデル例として示されている図の一部において、大学病院の期間のみに「キャリア形成」という言葉を用いているが、キャリア形成は期間全体と通じて行われるべきものであることから、モデル例のような言葉の使い方は適切でないと思われる。そのため、「医師循環システム」を学生に説明する際には、制度全体の趣旨について誤解を招かないような説明方法を検討することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>キャリア形成は全ての病院、全ての期間が該当するので表現を改めて、誤解のないよう学生に説明を行う。大学病院や高度医療病院等に言及する場合には、「専門医の取得等を目的とする研修」という表現を用いる(28)</p>	<p>—</p>

<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>動物実験施設について、将来的に福室キャンパスにも設置する方向で検討しているとのことだが、同施設は医学教育を行う上で重要な施設であることから、設置を積極的に検討することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>動物を用いる実習(1, 2年次)はすべて小松島キャンパスで行うため、小松島キャンパス現有の動物実験施設の使用で教育に支障はないと考えている。ただし、研究上および将来の大学院教育には福室キャンパスにも動物実験施設は必須と考えている。福室キャンパスに建設予定の第1教育研究棟7階の一部に動物飼育・実験室を設置することを確定した(平成30年4月使用開始)(28)</p>	<p>別棟の動物実験施設を、将来、福室敷地内に建設することを検討する(28)</p>
--------------------------	--	--------------	---	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<医学部 医学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>教員組織の編成方針</p> <p>教員構成</p> <p>設置認可申請時における予定専任教員数は、173名である。そのうち43名は、本学薬学部及び附属病院医師から内部登用している。</p> <p>専任教員の分野別内訳と配置数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎医学系教室 解剖学（4名）、生理学（3名）、神経科学（3名）、薬理学（3名）、病理学（5名）、医科学（3名）、微生物学（2名）、免疫学（3名）、放射線基礎医学（3名）、医療管理学（3名）、衛生学・公衆衛生学（3名）、法医学（2名） 合計 12教室 37名 ・臨床医学系教室 内科学第一（11名）、内科学第二（11名）、内科学第三（9名）、地域医療学（6名）、老年神経内科学（5名）、腫瘍内科学（3名）、精神科学（3名）、小児科学（6名）、外科学第一（12名）、外科学第二（6名）、外科学第三（5名）心臓血管外科学（5名）、整形外科学（4名）、脳神経外科学（5名）、皮膚科学（3名）、泌尿器科学（3名）、眼科学（4名）、耳鼻咽喉科学（6名）、放射線医学（6名）、産婦人科学（6名）、麻酔科学（4名）、救急・災害医療学（3名）、リハビリテーション学（4名） 合計 23教室 130名 ・病院中央部門 臨床検査部（1名）、輸血部（1名）、血液浄化部（1名）、感染制御部（1名） 合計 4部 4名 <p>教員構成の特色</p> <p>173名の専任教員の職位別構成は、教授、准教授・講師、助教がそれぞれ34名、76名、63名である。</p> <p>教員組織の年齢構成及び定年の扱い</p> <p>完成年次における年齢構成は、30歳代14名、40歳代62名、50歳代68名、60歳以上29名となる。</p> <p><就任時期の変更（前倒しでの就任）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授 岡 昌宏 就任時期：平成29年4月 ・教授 渡部 洋 就任時期：平成29年4月 ・准教授 中西 透 就任時期：平成30年4月 ・准教授 室谷嘉一 就任時期：平成29年4月 ・講師 坂口正展 就任時期：平成29年4月 ・助教 佐藤真一 就任時期：平成29年4月 <p><就任時期の変更（後倒しでの就任）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・准教授 笠島敦子 就任時期：平成28年4月 ・准教授 佐藤 滋 就任時期：平成28年4月 ・助教 安嶋（岸）久美子 就任時期：平成28年4月 ・助教 武田和也 就任時期：平成28年4月 ・助教 増田 衛 就任時期：平成28年4月 ・助教 西田秀史 就任時期：平成28年4月 	<p>完成年度における予定専任教員数は、182名である。そのうち54名は、本学薬学部及び附属病院医師から内部登用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎医学系教室 解剖学（3名）、生理学（3名）、神経科学（3名）、薬理学（3名）、病理学（5名）、医化学（3名）、微生物学（2名）、免疫学（3名）、放射線基礎医学（3名）、医療管理学（3名）、衛生学・公衆衛生学（3名）、法医学（3名）、 合計 12教室 37名 ・臨床医学系教室 内科学第一（15名）、内科学第二（13名）、内科学第三（9名）、地域医療学（6名）、老年神経内科学（5名）、腫瘍内科学（3名）、精神科学（5名）、小児科学（6名）、外科学第一（11名）、外科学第二（5名）、外科学第三（5名）心臓血管外科学（4名）、整形外科学（5名）、脳神経外科学（5名）、皮膚科学（3名）、泌尿器科学（3名）、眼科学（4名）、耳鼻咽喉科学（6名）、放射線医学（6名）、産婦人科学（6名）、麻酔科学（5名）、救急・災害医療学（3名）、リハビリテーション学（4名） 合計 23教室 137名 ・病院中央部門 臨床検査部（1名）、輸血部（1名）、血液浄化部（1名）、感染制御部（2名） 合計 4部 5名 <p>182名の専任教員の職位別構成は、教授、准教授・講師、助教がそれぞれ36名、77名、69名である。</p> <p>完成年次における年齢構成は、30歳代24名、40歳代67名、50歳代62名、60歳以上29名となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授 岡 昌宏 就任時期：平成28年4月 ・教授 渡部 洋 就任時期：平成28年6月 ・准教授 中西 透 就任時期：平成28年4月 ・准教授 室谷嘉一 就任時期：平成28年4月 ・講師 坂口正展 就任時期：平成28年4月 ・助教 佐藤真一 就任時期：平成28年4月 ・准教授 笠島敦子 就任時期：平成30年4月 ・准教授 佐藤 滋 就任時期：平成29年4月 ・助教 安嶋（岸）久美子 就任時期：平成29年4月 ・助教 武田和也 就任時期：平成28年9月 ・助教 増田 衛 就任時期：平成29年4月 ・助教 西田秀史 就任時期：平成29年4月

<p><授業科目の概要></p> <p>・ <u>大学基礎論</u> 大学基礎論では、学生が主体的かつ自律的に学ぶために、「聴く力」「読む力」「話す力」「書く力」「調べる力」を養う。併せて医師として求められる基本的な資質である「他人を思いやる視点」「高いコミュニケーション能力」「チームで連携する大切さを認識する力」「物事を総合的な視野に立って判断できる力」等を身につけさせる。授業形態は講義とチーム基盤型学習（TBL）、体験学習と訪問学習を融合させた形式をとる。</p> <p>・ <u>【9002】基礎化学</u> 糖、脂質、アミノ酸、タンパク質など、生体内高分子の構造と機能、および合成と分解の代謝経路を学ぶ。また、各種酵素の分類と機能、およびミトコンドリア機能に関する概論も本教科で履修する。これらの内容は、生体内の生理活性物質合成を理解する上で必須の知識であり、糖尿病やガンなどの疾患病態生理と深く関連する重要な項目である。</p> <p>・ <u>【9003】基礎生物学</u> 本授業では、医学の基礎分野、臨床医学を学ぶ際に必要な最低限の知識を習得し、それをもとに病気がどのように起こるかを順序立てて考える方法を習得してもらうのが最大の目的である。そのために、主として人体における細胞の遺伝子制御や臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系および遺伝に関する基本概念を理解してもらうとともに、生物の進化と多様性、生態系における生物個体間の関係と生態行動の基本について学ぶ。</p>	<p>・ <u>大学基礎論</u> (概要) 大学基礎論では、学生が主体的かつ自律的に学ぶために必要となる基本的な学習力を養い、社会人として求められる基本的な資質や人間力を育む。また、医師としてのキャリア意識を各自に再確認させる。授業形態は講義とチーム基盤型学習（TBL）、訪問学習を融合させた形式をとる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (大野 勲・兼任教員／4回) (共同) 医師として地域医療に貢献する志を抱いて入学してきた学生たちの目的意識を再確認させるために、東北地方各県の風土、文化・歴史、生活および医療を紹介する。学生たちは、グループ単位で、各県を事前調査・訪問し、見学内容をまとめ発表することにより、将来自らがその医療を支える東北地方の理解を深める。</p> <p>(兼任教員／11回) 入学後に主体的かつ自律的に学ぶために必要となる「聴く力」、「読む力」、「話す力」、「書く力」および「調べる力」を養うとともに、社会人として求められる基本的な資質である「他人を思いやる視点」「高いコミュニケーション能力」「チームで連携する大切さを認識する力」「物事を総合的な視野に立って判断できる力」等を身につけさせるために、読書、情報の整理、発表・討論を行う。</p> <p>・ <u>【9002】基礎化学</u> (概要) 糖、脂質、アミノ酸、タンパク質など、生体内高分子の構造と機能、および合成と分解の代謝経路を学ぶ。また、各種酵素の分類と機能、およびミトコンドリア機能に関する概論も本科目で履修する。これらの内容は、生体内の生理活性物質合成を理解する上で必須の知識であり、糖尿病やガンなどの疾患病態生理と深く関連する重要な項目である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (森口 尚／7回) DNAおよび遺伝子の構造・機能と転写・翻訳メカニズムについて学習する。</p> <p>(上村 聡志／4回) 有機化合物の構造と化学反応について学習する。</p> <p>(大槻 晃史／4回) 糖の分類・組成および代謝と疾病病態との関わりについて学習する。</p> <p>・ <u>【9003】基礎生物学</u> 本授業では、医学の基礎分野、臨床医学を学ぶ際に必要な最低限の知識を習得し、それをもとに病気がどのように起こるかを順序立てて考える方法を習得してもらうのが最大の目的である。そのために、主として人体における細胞の遺伝子制御や臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系および遺伝に関する基本概念を理解してもらうとともに、生物の進化と多様性、生態系における生物個体間の関係と生態行動の基本について学ぶ。 ※林もゆる は、平成28年10月就任のため、平成28年度は河合佳子 が担当（平成29年度からは、共同で担当）。</p>
---	---

<p>・【1002】医療コミュニケーション学 患者及びその家族とのコミュニケーションの重要性、およびチーム医療における医師と医療従事者間の意志疎通・連携の重要性を学ぶ。医師と患者・家族との関係については、相手が弱者であり医師とは対等の立場でないことを理解し、患者・家族との信頼関係を築くためのコミュニケーションの方法、留意点について学ぶ。チーム医療における医師と他職種の連携では、お互いの専門性を尊重しつつ患者中心の医療を連携して実施するためのコミュニケーションの方法、留意点について学ぶ。</p>	<p>・【1002】医療コミュニケーション学 (概要) 患者及びその家族とのコミュニケーションの重要性、およびチーム医療における医師と医療従事者間の意志疎通・連携の重要性を学ぶ。医師と患者・家族との関係については、相手が弱者であり医師とは対等の立場でないことを理解し、患者・家族との信頼関係を築くためのコミュニケーションの方法、留意点について、症例・事例をもとに学ぶ。チーム医療における医師と他職種の連携では、お互いの専門性を尊重しつつ患者中心の医療を連携して実施するためのコミュニケーションの方法、留意点について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (大野 勲／3回) 傾聴等のコミュニケーションスキルを含むコミュニケーションの概要、患者の立場・心境・価値観・権利およびプライバシーを考慮した、医療従事者としての患者・家族とのコミュニケーションおよび医療機関内・医療機関相互の多職種協働に向けたコミュニケーションについて学ぶ。</p> <p>(児山 香／3回) 緩和領域における患者・家族とのコミュニケーションのとり方について、悪性腫瘍疾患患者の例をもとに学ぶ。</p> <p>(鈴木 映二／3回) 精神症状、うつ、不安、妄想の強い患者、認知症患者とその家族とのコミュニケーションのとり方について、精神科疾患患者の例をもとに学ぶ。</p> <p>(渡部 洋 / 3回) 女性患者や妊婦とその家族とのコミュニケーションのとり方について、産婦人科疾患患者の例をもとに学ぶ。</p> <p>(宮澤 イザベル／1回) 患者が外国人あるいは患者の家族が外国人の場合のコミュニケーションのとり方について、外国人の抱えるコミュニケーション問題への対応を含めて学ぶ。</p> <p>(目時 弘仁・兼任教員／1回) 予防医学、健康教育、保健活動、健診など地域の保健衛生活動の従事者や行政担当者との連携において必要とされるコミュニケーションのとり方を学ぶ。</p> <p>(兼任教員／1回) 医療上の紛争予防と紛争問題が生じたときのコミュニケーションのとり方について学ぶ。</p>
<p>・【2000】衛生学 人類をとりまく環境、健康を維持増進するために必要な環境と、環境変化がもたらす健康影響について理解する。大気汚染系疾病、重金属や化学物質曝露による健康被害と、その診断、治療、予防について基礎知識を習得する。環境中毒、金属中毒・ガス中毒、有機溶剤中毒に関し、その曝露・吸収・代謝・排泄、標的臓器、発癌性と変異原性について学ぶ。また、大気汚染対策、水質汚染対策、化学物質の環境リスク評価廃棄物対策について学習する。さらに、被災地域等における環境保健について課題を抽出し、対策を検討する。</p>	<p>・【2000】衛生学 (概要) 人類をとりまく環境、健康を維持増進するために必要な環境と、環境変化がもたらす健康影響について理解する。大気汚染系疾病、重金属や化学物質曝露による健康被害と、その診断、治療、予防について基礎知識を習得する。環境中毒、金属中毒・ガス中毒、有機溶剤中毒に関し、その曝露・吸収・代謝・排泄、標的臓器、発癌性と変異原性について学ぶ。また、大気汚染対策、水質汚染対策、化学物質の環境リスク評価廃棄物対策について学習する。さらに、被災地域等における環境保健について課題を抽出し、対策を検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (目時 弘仁／11回) 健康を維持増進するために必要な環境と、環境変化がもたらす健康影響について概説し、環境変化がもたらす健康影響について理解する素地を醸成する。特に物理的原因や化学的環境、産業保健とそれに関わる医療従事者の業務について詳説する。</p> <p>(村上 任尚／2回) 金属中毒・ガス中毒、有機溶剤中毒について、その曝露過程や吸収・代謝・排泄について詳説する。医学研究で得られる実測データと統計の実際について詳説する。</p> <p>(佐藤 倫広／2回) 毒物の曝露・吸収・代謝・排泄や、標的臓器等、薬物と共通の機構について詳説する。カドミウム汚染と健康影響について詳説する。</p>

<p>・【2006】法医学 (概要) 死の判定と死体現象、窒息、損傷、異常温度による死、乳児の急死、DNA多型の法医学的应用、災害時の法医学的対応、中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 高木 徹也/8回) 医師に必要となる法医学の知識、死の兆候、死の判定法、早期に起きる死体現象、晩期にみられる死体現象など、死の判定と死体現象について学ぶ。窒息、溢死、圧死、溺死、体表損傷の見方、温熱損傷による死、熱傷、焼死、交通事故に特徴的な損傷について学習する。</p> <p>(125 山田 千歩/7回) 性と胎児、急死など新生児・乳児に係る法医学、DNA多型の法医学的应用、災害時の法医学的対応、中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。</p> <p>・【3000】細胞生物学 細胞は、あらゆる生命の基本単位である。細胞生物学は、細胞の持つ様々な特性を学ぶことで、様々な科学の理解の基礎となる。細胞膜の構造や膜輸送、微細構造とその機能、細胞骨格、イオンチャンネルや、分化と動態、細胞運動の仕組みを分子レベルで理解する。また、遺伝情報の転写、翻訳からタンパク質の発現、タンパク質の輸送機構について学ぶ。さらに、細胞周期や生殖細胞と減数分裂、細胞のがん化について最新の知見を理解することができる。</p> <p>・【3002】医化学 (概要) 生体物質の代謝の動態を解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(7 森口 尚/20回) 医化学総論に加え、酵素反応、核酸と転写・翻訳、アミノ酸代謝およびこれらの代謝と疾患との関連を解説する。</p> <p>(88 上村 聡志/10回) 糖・脂質代謝とエネルギー産生および細胞増殖における代謝反応について概説する。</p>	<p>・【2006】法医学 (概要) 死の判定と死体現象、窒息、損傷、異常温度による死、乳児の急死、DNA多型の法医学的应用、災害時の法医学的対応、中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (高木 徹也/8回) 医師に必要となる法医学の知識、死の兆候、死の判定法、早期に起きる死体現象、晩期にみられる死体現象など、死の判定と死体現象について学ぶ。窒息、溢死、圧死、溺死、体表損傷の見方、温熱損傷による死、熱傷、焼死、交通事故に特徴的な損傷について学習する。</p> <p>(山田 千歩/5回) 性と胎児、急死など新生児・乳児に係る法医学、DNA多型の法医学的应用、災害時の法医学的対応について基本知識を習得する。</p> <p>(奈良 明奈/2回) 中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。</p> <p>・【3000】細胞生物学 (概要) 細胞は、あらゆる生命の基本単位である。細胞生物学は、細胞の持つ様々な特性を学ぶことで、様々な科学の理解の基礎となる。細胞膜の構造や膜輸送、微細構造とその機能、細胞骨格、イオンチャンネルや、分化と動態、細胞運動の仕組みを分子レベルで理解する。また、遺伝情報の転写、翻訳からタンパク質の発現、タンパク質の輸送機構について学ぶ。さらに、細胞周期や生殖細胞と減数分裂、細胞のがん化について最新の知見を理解することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (中村 晃/4回) 細胞接着や細胞間情報伝達に関して、細胞間の結合様式や細胞間や細胞内で生じるシグナル伝達機構を分子レベルで理解する。また、細胞周期の制御メカニズムを学び、制御された細胞死(アポトーシス)の基本知識を習得する。</p> <p>(海部 知則/11回) 生命の基本単位である細胞の特徴的な構造とその機能を学ぶ。その後、細胞膜の構造と細胞膜を介した物質移動、細胞内の微細構造と物質輸送等の細胞維持機構を理解する。また、細胞形状を支持する細胞骨格の基本構造や細胞運動を分子レベルで理解する。核と遺伝情報の転写、タンパク質への翻訳について学ぶ。さらに、細胞増殖や分化に関して細胞分裂や減数分裂の制御過程を学び、がん細胞の特徴やがん化する仕組みについての基本知識と最新知見を理解する。</p> <p>・【3002】医化学 (概要) 生体物質の代謝の動態を解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (森口 尚/9回) 医化学総論に加え、酵素反応、核酸と転写・翻訳、アミノ酸代謝およびこれらの代謝と疾患との関連を解説する。</p> <p>(上村 聡志/3回) 糖・脂質代謝とエネルギー産生および細胞増殖における代謝反応について概説する。</p> <p>(大槻 晃史/6回) RNAの構造と機能、遺伝子編集技術、ゲノム科学について概説する。</p> <p>(兼任教員/12回) ゲノムDNAの構造と遺伝子修復、複製、インスリン、糖尿病、副腎皮質ホルモン、血液生化学、幹細胞、白血病、ビタミン、核内受容体、エピジェネティクス等に関して解説する。</p>
--	---

<p>・【3004】放射線基礎医学 放射線の物理化学的性質を理解するとともに、ゲノムに与える障害とその修復の機構について学ぶ。また、放射線の生体・組織・細胞に与える障害、すなわち細胞死や炎症などの急性・慢性の障害（確定的影響）および将来の発癌リスク（確率的影響）に関する正確な知識を学ぶ。さらに放射線の安全管理や放射線防護の方法について学ぶ。これらの知識をもとに、原子炉事故などの放射線災害時に医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。</p> <p>校舎等施設の整備計画 附属病院 （1）現附属病院の概要（平成26年4月現在）</p> <p>① 所在地 仙台市宮城野区福室一丁目12-1 ② 施設規模 敷地面積36,440.53㎡、建物延床面積27,880.77㎡ ③ 病床数466床、22診療科目 ④ 患者数 年間外来 172,004 人、同入院 121,307 人 ⑤ 職員数：718 名。内訳：医師 84.7 名、歯科医師 1 名、看護要員 378.5 名、薬剤師 29 名、その他のメディカルスタッフ 107.3 名、事務職員 51 名、医療クラーク 18 名、その他 48.5 名</p> <p>⑥ 診療科（22診療科）内訳：内科（総合診療科）、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、糖尿病内科、精神科、腫瘍内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、放射線科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科、リウマチ科</p> <p>（2）整備計画 3）増床計画 平成28年度から仙台医療圏にある2病院を譲り受ける計画で、それぞれ基本合意書を締結し協議を進めている。これらの病院は、医学部設置当初は、第2附属病院、第3附属病院として運営した上で、平成30年度の新病棟完成時に、600床程度の本院（現附属病院）と130床程度の分院及び無病床診療所に整理統合する。</p> <p>4）診療要員の確保 臨床系教員の採用予定者数は136名（附属病院からの登用を含む）であり、これに附属病院で診療のみに従事する医師32名、譲渡を受ける予定の病院の医師39名（希望する従業員全てを引き受ける予定）を合わせ、現時点で207名の医師を確保している。</p>	<p>・【3004】放射線基礎医学 （概要）放射線の物理・化学的性質および生体に及ぼす生物影響に関する正確な知識を身につける。また、臨床放射線医学につながる画像診断の基本的理論や、悪性腫瘍の放射線治療に関する基礎的な知識を身につける。さらに原子力発電所事故などの放射線災害時に、医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （栗政 明弘／9回） 放射線の生体、組織・細胞に与える障害、すなわち細胞死や炎症などの急性・慢性の障害（確定的影響）および将来の発癌リスク（確率的影響）に関する正確な知識を学ぶ。さらに、胎児影響や遺伝的影響・リスクについて、理解する。これまでの過去の放射線事故や原子炉事故などを学ぶと共に、緊急被ばく事故に際しての放射線災害時に医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。 また、臨床放射線医学と密接に関係のあるX線と放射線画像診断に関して、その基本的原理を理解し、さらに放射線治療に関する治療装置の原理と人体ならびに腫瘍細胞への放射線の作用の基本を理解する。</p> <p>（桑原 義和／5回） 放射線の物理化学的性質、放射線の量・単位を理解するとともに、細胞が放射線を受けた場合のゲノムに与える障害とその修復の機構について学ぶ。さらに放射線の安全管理や放射線防護の方法について学ぶ。</p> <p>（兼任教員／1回） 広島長崎の原爆による放射線被ばくについて学び、また福島島の放射線被ばくに関する事故を理解する。</p> <p>（1）東北医科薬科大学病院の概要（平成28年5月1日現在。患者数は平成27年度実績）</p> <p>① 変更なし ② 変更なし ③ 病床数466床、28診療科目 ④ 患者数 年間外来 164,928 人、同入院 106,798 人 ⑤ 職員数：780 名。内訳：医師 115 名、歯科医師 2 名、看護要員 402 名、薬剤師 36 名、その他のメディカルスタッフ 115 名、事務職員 65.8 名、医療クラーク 21 名、その他 23.2 名</p> <p>⑥ 診療科（28診療科）内訳：内科（総合診療科）、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、糖尿病代謝内科、腎臓内分泌内科、神経内科、感染症内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、精神科、血液・リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科</p> <p>・東北医科薬科大学 若林病院 所在地 仙台市若林区大和町二丁目29番1号 病床数 199床（うち入院ドック用12室） 患者数 入院141人 平成27年度（1日平均） 外来541人 “ 職員数 358人（平成28年5月1日） （内訳）医師34人、歯科医師2人、薬剤師9人、医療技術者65人、看護師176人、事務員32人、その他40人 診療科（22診療科）内訳：内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科</p> <p>4）診療要員の確保 臨床系教員の採用予定者数は145名（附属病院からの登用を含む）であり、これに東北医科薬科大学病院で診療のみに従事する医師23名、東北医科薬科大学若林病院の医師30名を合わせ、現時点で198名の医師を確保している。</p>
--	--

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

全学組織として、授業改善その他のファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動及び事務職員等の職能開発（スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）を推進するためにFD・SD推進委員会を設置している。医学部を設置し、複数学部になったことから、現行のFD・SD推進委員会のあり方等について検討している。全学の体制を整備するとともに、各学部における具体的なFD・SD活動計画の立案、実施を円滑に行うため、部会を置くか、若しくは各学部の組織で対応する予定である。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

これまでは、全体委員会の開催は、年次計画と実施状況の検証について、年2回程度定期開催している。その他、授業アンケートの実施や研修会の企画など、個別事項については、担当する委員を中心に、随時検討や準備を行っている。

c 委員会の審議事項等

- (1) FD・SD活動の企画立案
- (2) FD・SD活動の実施計画の立案
- (3) FD・SD活動の評価
- (4) FD・SD活動に関する情報の収集と提供

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 授業アンケートと自己評価報告書の作成・評価
- (2) 公開授業と評価
- (3) 研修会、講演会の開催
- (4) 新任教職員のための研修会
- (5) 教員個人評価 等

b 実施方法

(1) 授業アンケート

授業改善を目的とした学生による授業アンケート調査を毎年行う。調査結果は、教授会に報告され、また報告書は全学に公開する。アンケート調査に基づいた項目について、授業担当教員に対して授業の自己評価報告書の提出も義務づける。

(2) 公開授業

授業技術の向上を目的に、同僚評価に相当する公開授業を実施し、教員相互の意見交換を行う。教員間の意見交換等を通じて、各教員の教育方法の改善が図られることを期待している。医学部における実施方法は現在、検討中である。

(3) 研修会、講演会等

新採用教職員を対象とした研修会やワークショップ、全学教職員を対象とした講演会やセミナーを開催する。また、FD活動の関連情報を提供することにより、教員が学外の講習会にも積極的に参加し、FD活動への関心が高まるよう促す。

(4) 新任教職員のための研修会

医学部教員就任予定者を対象に、医学部の設置趣旨、目的等について、共通認識を持ち円滑に学部運営をスタートさせるため、新たに教員として任用する予定者約180名に複数回(全体のほか、基礎系・臨床系・教養系、管理責任者等対象を分けての開催)、また今年度赴任者約130名に2回、事前説明会を実施した。カリキュラムの構成、履修に関する規定、シラバスの作成方法などの情報を共有し、授業運営に支障を来さないようにした。学年進行に伴い、来年度以降新たに赴任する教員についても、同様の取組を予定している。例年のことではあるが、4月1日に全教員が出席する全学教育懇談会を開催し、学長、学部長、センター長等から、大学の事業計画、運営方針などについて理解を深めてもらうための説明も行っている。

(5) 教員個人評価

全教員に対して「教育・研究等業績報告書」を学部長、学長に毎年提出するよう義務づける。「1 教育」「2 研究」「3 組織運営」「4 社会貢献」（医学部教員については、臨床系教員に診療業務を加える等検討する予定である。）を対象評価項目とし、客観的評価指標と、報告者自身の主観的な自己評価からなり、これらを総合的に評価する。本評価結果は、教員の任期に係る再任審査あるいは昇任審査の基礎資料として用いられるが、教育研究活動の状況を把握するとともに、教育研究活動の活性化のための基礎資料としても活用する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

上記bの項目の実施を計画しているが、医学部開設初年度であるため、実施方法等の細部について検討する必要がある。特に教育内容・シラバスの改善を継続して行う必要があるが、授業を開始したばかりであり、学生の理解度等を把握するための、定期試験や授業アンケートなどは未実施である。今後、基礎的な情報を踏まえつつ、FD組織や教務委員会が中心となり検討する予定である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

上記cのとおり、今後取組を進める予定であるが、授業改善については、医学教育推進センターが授業内容の分析、改善点等の検討を行い、教務委員会や教授会での意見交換を踏まえて、各教員に理解と浸透を図っていききたい。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

開設初年度は、調査項目の内容の検討を踏まえ、後期に実施を予定している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

これまで全学で行ってきたように、医学部における実施結果も、教授会への報告のほか、学内電子回覧で全学に公開する予定である。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

医学部は、復興庁、文部科学省、厚生労働省の3省庁合同による医学部設置認可に関する基本方針(平成25年12月17日)「震災からの復興、今後の超高齢化と東北地方における医師不足、原子力事故からの再生といった要請を踏まえつつ、将来の医師需給や地域医療への影響も勘案し、東北地方に1校に限定して、一定の条件を満たす場合に医学部新設について認可を行うことを可能とする。」ことを趣旨として、認可されたものである。従って、本学医学部は、東北地方における医師不足、医療崩壊の現状を踏まえて、被災地域の復旧・復興の核となり、東北地方の医療を将来にわたって担い、超高齢化社会における地域医療提供体制の構築に資することをミッションとし、このため、医療過疎に直面している東北地方に定着し、地域医療・災害医療に貢献できる医師を養成する。

学生の募集に当たっては、地域医療への貢献に熱意を持った学生に志願してもらうため、本医学部の設置の趣旨・目的について、説明会、ホームページなどにより周知を図り、関係各方面の理解を得るよう努めた。入学定員100名に対する入学試験受験者数は22倍を超え、最終的に、計画どおり修学資金枠55名、一般枠45名、計100名の優秀な学生が入学した。今後においても、医学部の設置の趣旨・目的を理解してもらうため、大学紹介、各種説明会、学校訪問などを積極的に、継続的に行っていく必要があると考えている。

開設初年度の現段階においては、特に教育面の評価は難しいが、学生教育を下支えする環境面の整備については順調に進んでいる。1年次前期から大学外の医療機関等を訪問して行う「早期医療体験学習」、各県行政担当者に講師をお願いする「大学基礎論」などで、医師会、薬剤師会、医療機関、行政関係部署等の協力が得られ、順調に授業が進んでいる。後期に行われる体験学習や、来年度以降のプログラム実施を進める上でも見通しが得られた。学生の解剖学実習(2年次前期)に必要な献体の確保については、東北大学白菊会から医学教育に関する深いご理解をいただき、本学も同会に参画することになっている。東北大学との間でも、献体関連業務、行事関係でも協力が得られ、学生の実習において大きな支障は生じないと思われる。

医学部の1、2年次は、薬学部のある小松島キャンパスで過ごす。3年次からは附属病院に隣接する福室キャンパスの教育研究棟に移ることになっている。現在、建設工事に着手し、計画どおり竣工できる予定である。また、学生の臨床教育に間に合うよう並行して、新病院棟(150床。既存病院等とあわせて600床規模の附属病院となる。)も建設予定である。

また、卒後に医師として地域定着を図るための方策として構想した、学外の地域医療ネットワーク病院(宮城県9病院、他の東北5県各2病院、計19病院)について、各病院の協力が得られることになり、長期臨床実習の場として活用できることになっている。このほか、宮城県には、本学の出先となる地域医療教育サテライトセンター(登米市、石巻市)を設置することになっており(登米市に関しては、本年4月1日に開設済みであり、環境を整備中である)、4週間の地域医療教育も行う体制も整いつつある。さらに、卒後の地域定着策の一つである卒後研修・キャリア形成支援の体制として、卒後研修センター及び地域医療総合支援センターを立ち上げた。

設置構想においては、様々な検討課題を抱えていたが、その後検討を重ねながら、関係方面の理解、支援を得るなど準備を進め、現段階では概ね計画どおり進捗していると考えている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

医学部の自己点検・評価は、開設初年度のため、自己点検・評価書としてのとりまとめ時期は未定である。なお、本学の自己点検・評価のあり方について、見直しを行っており、学校教育法に規定する基準の省令改正予定を踏まえ、学内規程の改正と医学部における自己点検・評価の実施体制を検討している。

b 公表方法

自己点検・評価報告書は、役員・教職員に配付し、ホームページにも掲載する。

③ 認証評価を受ける計画

大学としては、大学機関別認証評価(日本高等教育評価機構)を平成25年度に受審し、大学評価基準に適合していると認定されている。

また、新設医学部の制度設計にあたり、医学教育分野別評価基準日本版の項目を参照しており、国際基準に基づく医学部医学科分野別認証評価を受審するため、学年進行に合わせて準備を進める。(受審時期は、未定)

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成28年9月末)